図書館だより　2024 第 2 号
2024 年 8 月 26 日発行
名寄市立大学図書館運営委員会
名寄市立大学図書館
〒096-8641
名寄市西 4 条北 8 丁目 1 番地

名寄女子短期大学と半澤洵学長の思い出

寄稿　加藤　隆 氏
（札幌保健医療大学 保健医療学部長、
名寄市立大学 元副学長）

1960 年(昭和 35)、道内初の公立短期大学として、現在の名寄市立大学の前身、名寄女子短期大学が開学しました。当時、北海道には私立短期大学 8 校があり、うち 7 校は札幌に、1 校は函館に設置されていました。当時の名寄市の人口は 35,000 人ほどの小都市でしたが、道北の女子の高等教育の必要性を訴え、名寄市民はじめ多くの心ある人々の熱意で誕生した短期大学なのです。家政科 60 名定員で職員 18 名。音楽室と体育館は高校と共用でした。しかも、建材の一部には名寄小学校の解体材が使用され、図書館の蔵書は市民や各界に寄贈を依頼したと記されており、当時の苦労が偲ばれます。

さて、名寄女子短期大学初代学長を担った半澤洵先生について少し紹介したいと思います。「納豆博士」として知られ、「半澤式納豆製造法」を確立して、当時の食生活改善に大いに貢献した人物です。先生は 1901 年(明治 34)に札幌農学校本科を卒業し、その後、宮部金吾の下で植物病理学を専攻し、欧米へ 3 年間留学します。宮部は「日本の植物学の父」と言われる人物で、あのクラーク博士で有名な札幌農学校の二期生として、内村鑑三や新渡戸稲造と同期で学んでいます。北大の資料には、「二期生として内村鑑三・新渡戸稲造とともに 3 秀才と呼ばれた」とあります。そして、欧米留学から戻った半澤洵先生は、1918 年(大正 7)に北海道帝国大学教授、1938 年(昭和 13)には同農学部長に就任します。まさに華々しい活躍です。しかし、ここで伝えたいことは別のことです。農学部長就任と同じ年に、札幌遠友夜学校校長の任も担うのです。ここで、新渡戸稲造とのつながりが出てきます。

遠友夜学校（札幌）

札幌遠友夜学校とは、貧困や仕事、家庭の事情などのため学校で学ぶことのできない子ども達のために設立された夜学校なのです。1894 年(明治 24)に、当時札幌農学校教授の新渡戸稲造と妻メアリーが開きました。市民の協力の下、宮部金吾や半澤洵、或いは有島武郎という北大の教員が学校の運営に携わっています。そして、教師を務めたのは多くの北大生でした。この夜学校は、戦争のために 1944 年(昭和 19)に閉校するまで 50 年間、恵まれない子ども達の教育に光を当てました。教室には、新渡戸の揮毫による「With malice toward none, with charity for all」(何人(なんぴと)にも悪意を抱かず、全ての人に慈愛を持って)の大きな額縁が掲げられていました。この夜学校の初代校長は新渡戸稲造です。新渡戸は 1894 年の開学からカナダで客死する 1933 年(昭和 8)までの長きにわたり担います。そのあと 2 代目校長は、新渡戸萬里子夫人(メリー・P・エルキントン)が担いますが、5 年後の 1938 年(昭和 13)9 月に病死します。そして、それを受けて 3 代目校長として札幌遠友夜学校を担ったのが半澤洵先生です。戦争による 1944 年の閉校まで数年でしたが、社会が不安定さを増し、戦時下体制に向かう中で、先生は charity for all の精神で格闘したことと思います。

遠友夜学校閉校から 15 年後、半澤洵先生は道北の地の女子教育、なかんずく女子高等教育のうねりを耳にしたのだと思います。すでに 80 歳を超えている先生でしたが、「With malice toward none, with charity for all」(何人(なんぴと)にも悪意を抱かず、全ての人に慈愛を持って)という新渡戸の声が聞こえたのかもしれません。1960 年に名寄に学長として赴いた半澤洵先生は、名寄女子短期大学を通じて「全ての人に慈愛を」を推進したに違いありません。

開学式での半澤洵学長式辞
半澤　洵●名寄女子短期大学学長（開学式の挨拶より）

多くの人々の願いと熱意、慈愛と祈りによって 60 余年の歴史を刻み、今もなお名寄市立大学という大木に成長している姿を見上げることができるのは、ともに一時期を過ごした者として誇り以外の何物でもありません。

図書館サークル『ぱたん、ぺら』 インフォメーションコーナー

図書館サークル『ぱたん、ぺら』では、市立名寄図書館で発行している YA 世代(10 代)に向けた読書情報誌『ツンドク』(年 3 回発行)へ、2024 年 7 月号よりおすすめ本の寄稿を行っています。『ツンドク』は市立名寄図書館 HP 上で公開されており、テーマ別おすすめ本コーナーの他にも利用案内やイベントのお知らせ等掲載されていますので、是非読んでみてくださいね！

市立名寄図書館 図書館だより「ツンドク」
http://www.city.nayoro.lg.jp/mobile/section/library/prkeql000001yo36.html

こちらの QR コードから「ツンドク」掲載 web ページにアクセス可能です！

展示のお知らせ

『第 171 回　芥川賞・直木賞』

図書館 2 階展示コーナーにて、芥川賞・直木賞受賞作品およびノミネート作品の展示を行っています。今回は 2 作品受賞となった芥川賞の『サンショウウオの四十九日』(朝比奈秋著)『バリ山行』(松永 K 三蔵著)、直木賞の『ツミデミック』(一穂ミチ著)は勿論、惜しくも受賞を逃した他ノミネート作品も、この機会に是非ご一読ください！

活用しよう！ 国立国会図書館 デジタル化資料送信サービス

2024 年 6 月より、当館でも「国立国会図書館 デジタル化資料送信サービス」の利用が可能となりました！

このサービスは、国立国会図書館でデジタル化された図書や雑誌のうち、絶版などの理由により現在入手困難なものについて、国立国会図書館の承認を受けた全国各地の公共図書館や大学図書館などで閲覧・複写できるようにしたものです。

以前は国立国会図書館に複写依頼をしないと取寄せられなかった文献の一部が、当館で直接閲覧・複写可能となりました。

当館の利用者登録をされている方であれば、学内・学外を問わずご利用いただけます。(本サービスは館内利用限定ですので、来館が難しい場合は、従来の文献複写依頼サービスをご利用ください)

ご利用の際は、利用申込書の提出が必要となりますので、図書館カウンター内職員へお声がけください。

また、著作権の範囲内で複写を受付けます。カウンターに備付けの「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス複写申込書」に必要事項を記入し、カウンター内職員へお渡しください。複写は有料となります(モノクロ 10 円/枚、カラー20 円/枚)。※ただし、本学在学生の卒業研究及び、本学教員の研究目的での複写については、料金は発生しません。

アイコン	公開範囲	当館での閲覧
国立国会図書館内限定	国立国会図書館内でのみ閲覧可能なもの	不可
送信サービスで閲覧可能	国立国会図書館内及び送信サービス参加者・参加図書館で閲覧可能なもの	可
ログインなしで閲覧可能	インターネット公開資料(フリーアクセス可能なもの)	可

国立国会図書館デジタルコレクション内の資料には、左図の 3 つのアイコンのいずれかがついています。図書館で閲覧可能なのは、下 2 つです。「ログインなしで閲覧可能」なものは、個人の PC やスマートフォン等でも閲覧が可能です！